

図1. 弾性波アークロスの送信点(星印)。信号を受ける地震観測点を三角で示す。低周波微動の震源を水色の点、東海地震の想定震源域を黄色の破線、図4に示す地震波速度構造断面を橙色の破線で示す。

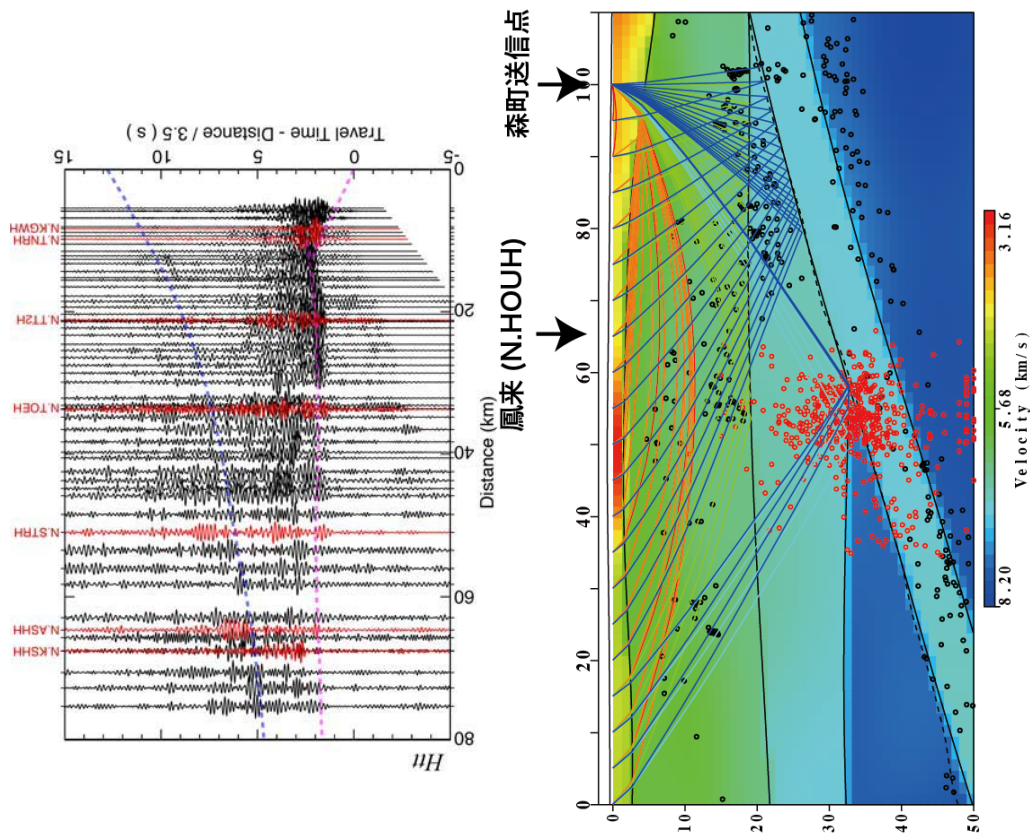


図4. (上)東海臨時観測及び、Hi-netと気象庁の定常観測点のデータを用いて計算した森町送信点との間の伝達関数の記録断面。3.5km/sでreduceしてある。黒線が臨時観測点、赤線が定常観測点の波形である。点線は下図のようにS波速度構造を仮定した時の計算走時。赤点線がSが直達波、青点線がフィリピン海プレート上面から反射してきた波の走時。(下)上図の走時曲線を計算する際に用いたS波速度構造の断面図と波線。図1の橙色の破線に沿った断面である。黒丸と赤丸は各々普通の地震と低周波地震の震源位置を示す。